

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jfnet.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@ns.kagawa-
gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699
J F 香川漁連

タケノコメバルの種苗生産が始まりました

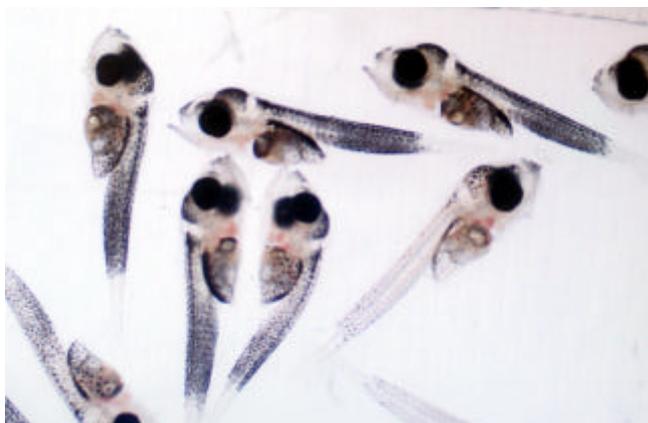
香川県水産試験場では今シーズンのタケノコメバル種苗生産が始まっています。

平成 14 年 12 月 22 日から産仔(メバル類は卵ではなく仔魚が生み出されます)が始まり、1 月 12 日までに合計 32 万尾の仔魚を収容しました。



タケノコメバル産仔前の親

生まれてすぐの仔魚は 7 ~ 8 mm 前後の大きさですが、かなりバラツキがあり、7.5 mm より小さいこともあれば 8 mm を超えるものもいます。産仔の次の日か、2 日目に餌を食い始めるものが多く、それまでは腹に蓄えた養分を消費しているようです。また生まれてすぐは鰾(うきぶくろ)にガスが貯まっていますが、順次できてきて、約一週間でほとんどの魚で見られるようになります。



タケノコメバルの仔魚(生まれて間もない魚)

今年の飼育は、最適水温を調べるために 12 と 15 の 2 種類の水温設定をして行っています。

餌は初めのうち生物飼料を与えます。まず 10 日間はプランクトンのシオミズツボムシ(0.2 mm 程

度)を与え、続いて熱帯魚の餌にも使用されるアルテミアの孵化幼生(0.7 mm 程度)を与えます。1 月 25 日現在、飼育はシオミズツボムシの段階が終わったところで、すべての水槽にアルテミアを与えています。今後は配合飼料に餌付けしていきます。ただし配合飼料を好む魚ではないので、なかなか餌付けは難しいだろうと覚悟しています。去年は飼育開始から 50 日目まで、配合飼料をやりながらアルテミアもやっていましたが、今年は工夫をしてもう少し早く配合飼料に餌付けをしたいと思っています。

3 月末には 3 ~ 5 cm 程度に成長、生産数は 7 万 ~ 9 万尾を見込んでおり、養殖試験と放流試験(中間育成後)を実施する予定です。また今年「豊かな海づくり大会」の一年前に実施するイベントが、サンポート高松で行われますので、そこで一部が放流されることになっています。

最後になりましたが、この場を借りて親魚収集にご協力いただいた方々にお礼申し上げます。今後も親魚の収集や生息地等生態的な情報をいただきたいと願っていますので皆様よろしくお願ひします。

香川県水産試験場 増養殖担当 棚野元秀

“春を告げる魚” イカナゴ漁が始まる

イカナゴの名前は「糸のように細長い魚」という古語に由来する。体色は銀白色ないし金白色の小魚で、下あごが上あごより長いのが特徴。北海道沿岸 ~ 瀬戸内海に分布し、底砂のきれいな水深 10 ~ 30 m くらいの内湾に大群で生息する。昼間は中層を遊泳してプランクトンを食べているのだが、夜になると砂や砂礫の中に潜って生活する。また、水温が 15 を超える初夏から晩秋まで、完全に砂の中に潜って「冬眠」ならぬ「夏眠」をするという珍しい習性を持っている。プランクトン食性で、全長 2.5 cm に達する。自身はタイやサワラなど大きな魚の餌になる。産卵期は 12 ~ 1 月で満 1 歳で成熟し、寿命は 2 ~ 3 年である。瀬戸内海では播磨灘を中心に分布している。

香川県のイカナゴ漁業は、江戸初期から明治・大

正期まではイカナゴ網、おそらく地びき網・船びき網だったであろう。大正期に導入された込網は、昭和初期には県下に広まり、戦中・戦後を通じて食糧確保に貢献した。食糧事情が安定するとイカナゴの需要は落ち、経営難となって、込網の統数が減少するが、その後は盛んになった魚類養殖の餌料として、また、早春の味として今も供給している。



水揚げされたイカナゴ

現在出漁しているのは、瀬戸内漁協所属の 3 隻だけで、初漁は昨年より多いとのこと。今後の漁に期待したいと込網漁業者は話している。現在水揚げされたイカナゴは全量加工業者に引き取られ、釜揚げとして市場に出荷される。イカナゴの漁期は、高松地区が 1 月 15 日～ 6 月末、庵治・中讃地区が 2 月 1 日～ 6 月末まで、瀬戸内 10、香西 3、下笠居 1、庵治 25、与島 2、本島 1、小手島 10、高見島 10、佐柳漁協 1 の合計で 63 統が操業する。高松・庵治地区とも海苔養殖漁業との兼業者が多いため、海苔養殖漁期が終了すると全船が揃うようになる。

イカナゴは、カルシウムの宝庫であるが、グルメ指向の強い日本人の食生活の中で鉄分とカルシウムは例外的に欠乏栄養素である。カルシウムはミネラル分の中でも、最も重要であり、私達は健康な体を保持するために、一日平均 0.6 g のカルシウムを摂らなければならない。カルシウムが欠乏すると骨粗鬆症の引き金となる他、精神面でも落ち着きのない、イライラした状態を誘引する。イカナゴは一匹丸ごと食べられる廃棄ゼロの魚で、内臓に含まれるビタミン D も同時に摂取できるため、カルシウムの吸収がとても効率の良い事も強みである。

鮮度落ちが早いので普通は、水揚げされたら加工場に直行し湯がかかる。さっと湯がいた「釜揚げ」は早春の味、酢醤油にからしを効かせて食べる。漁村では、船から揚げたばかりの活きのいいイカナゴで刺身、南蛮漬け、唐揚げ、棒入り、くぎ煮、付け焼、スキ焼なども人気を呼んでいる。



イカナゴの釜揚げ作業

珍しい漁業法紹介

まで突き漁業

子供の頃、潮干狩りに行ってマテガイの生息している穴「俗に(め)という」を見つけ、食塩をひとつまみ入れて、その刺激で飛び出してきたところをすばやくつかみ取る遊びをしたことのある人は多いでしょう。

そのマテガイの旬は秋から冬で、生のまま食べたり、塩焼きにしたり、塩ゆでにして酢味噌和えや、さっと湯搔いて白味噌であえた「ぬた」が旨い。殻は薄くてもろいので、むき身にするとき殻のかけらが混ざらぬよう、注意すること。



マテ貝

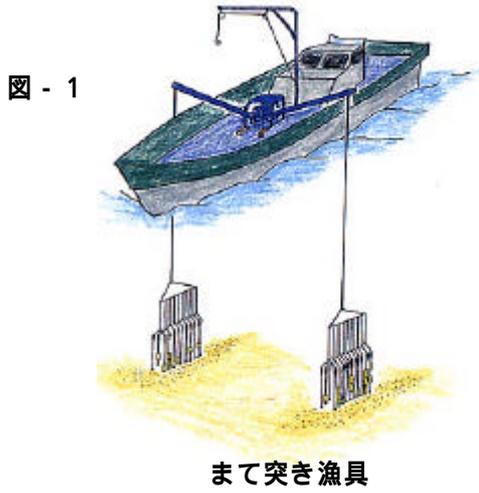
本県のまで突き漁業は、昭和 50 年代には約 100 経営体が操業し、500 トンを超える漁獲が続いていた。しかし、環境の変化と乱獲により、最近マテガイ資源は減少し、操業者も丸亀市漁協の 2 名だけとなってしまい、まで突き漁業は風前の灯になっている。

現在の漁具・漁法であります。図 - 1 に示すように漁具は 44 本の「ツム」と呼ばれる銚を 2 列に規則正しく垂下したものを 1 セットとする。1 セツ

トずつ両舷から吊り下げ、船上に設置した専用の自動機械で上下させる。1セットの重量は約70kgもある。ツムは船上の機械の上下により、海底で踊るように飛び跳ねながら海底5～10cmの深さまで突く。砂中に潜っているマテを突き刺し、砂中から抜き出しマテはツムに串刺しとなる。1本のツムに次々にマテが刺さり、先に刺さったマテはツムの上へと押し上げられる。マテはツムの長さいっぱいまでは縦に刺さるが、それ以上になると横向きにもなる。

船上の機械は約1.5秒に1回規則正しく上下する。下げる時は、海底に勢いよくツムが突き刺さるよう漁具を落とすと言った方がよい。突きながら少しずつ漁場を移動する。海底を引きずる重りを船から下ろし、潮流に流される速度を調整する。水深が変化するたびに吊り下げ口 - プの長さを調整する。1回20～30分間操業し、漁具を船上に上げる。ツムからマテを剥ぎ取り再び漁具を投入する。

中潮時が最も操業しやすく漁獲も多いが、大潮、小潮時にも操業する。最近では、朝5時に出港し午後1時半には帰港する。漁期は10月～5月である。水温が下がると、表層近くにマテが上がり突きやすくなる。漁場は丸亀沖で、また突き漁業による漁獲物はマテのみであるが、たまに間違っってイイダコ、カレイ、カニが刺さることがある。漁獲したマテは、普通むき身にして市場に出荷する。



ライフジャケット(救命胴衣)着用について

この度、「小型船舶安全規則等」の一部改正及び「船舶職員及び小型船舶操縦者法」の施行に伴い、一人乗り用小型漁船については、平成15年初夏より救命胴衣等着用が義務化される見通しとなりました。また、義務化されなかったその他の小型船舶でも、着用の努力が課せられることとなっております。救命胴衣の着用は、海難事故で生死を分けると言

われるほどで、香川県漁連購買事業部では、指導部及び(社)香川県水産振興協会の着用推進のための啓発普及と併せて、海難事故による人命救助の観点から、救命胴衣の取扱いを始めました。先般の購買担当者会議におきまして、最新の小型救命胴衣の取扱い等を説明し、現在、組合を通して救命胴衣の取りまとめをしています。

なお、救命胴衣のメ - カ - ・仕様等数種類ありますので、詳細な説明等希望の場合は下記まで問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 : 香川県漁業協同組合連合会
購買事業部資材課 (TEL 087 825-0352)

タスキ型
(自動膨張式)



TJW 5型

ウエストポーチ型
(自動膨張式)



マリンポ - チ A・B
(手動膨張式)

ウエストポ - チ・
ライフラフトジャケット



主な行事予定 (2/1～1/28)

- 2月4日(火) 資源管理型漁業流通対策部会
- 5日(水) 瀬戸内海ブロック資源管理型漁業情報交換連絡会議
- 6日(木) 第6回のり共販
- 7日(金) 全無協四国地方支部連合会通常総会(松山)
- 8日(土) 三崎・大浜漁協合併調印式
- 10日(月) 東讃・小豆島、高松地域漁業者検討会
- 15日(土) 中讃、三豊地域漁業者検討会
- 18日(火) 愛媛・香川連合海区委員会
- 24日(月) 第7回のり共販
- 25日(火) 岡山・香川連合海区委員会(岡山)